

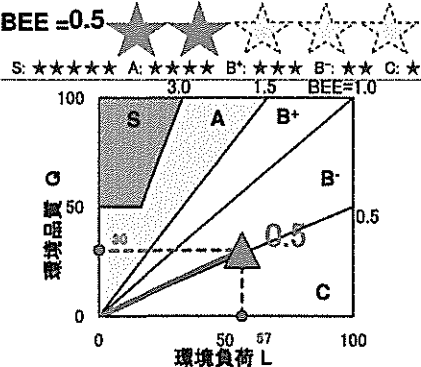
CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

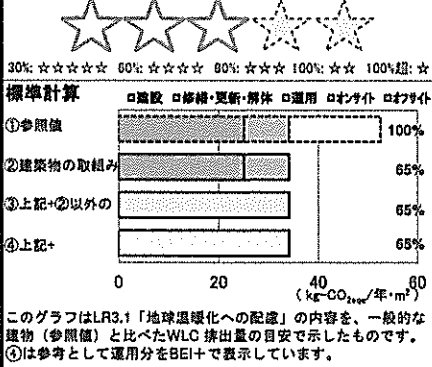
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.23

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ウッディーハウス大型倉庫	階数	地上2F、地下0F
建設地	京都府舞鶴市字浜小字浜1054番	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2026年4月21日
敷地面積	2,755㎡	作成者	田端 正昭
建築面積	1,501㎡	確認日	
延床面積	2,997㎡	確認者	

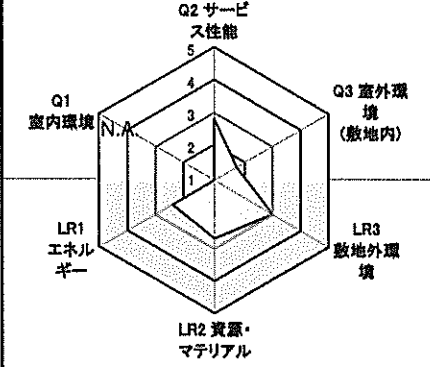
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)



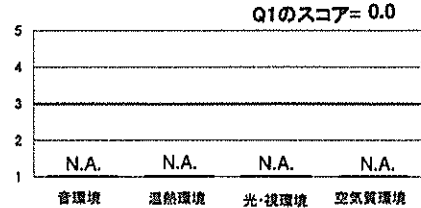
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



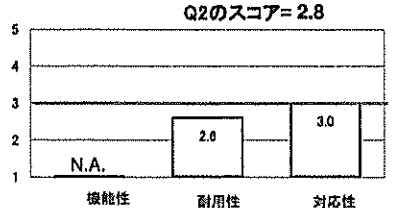
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

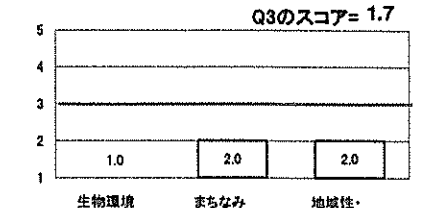
Q1 室内環境



Q2 サービス性能

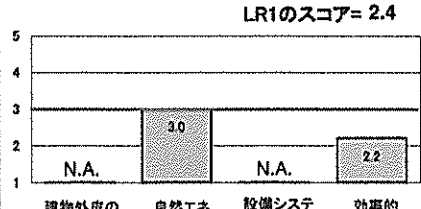


Q3 室外環境(敷地内)

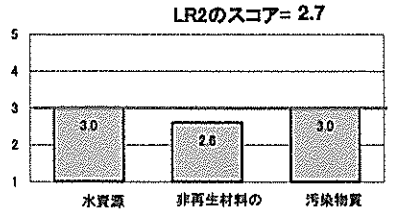


LR 環境負荷低減性

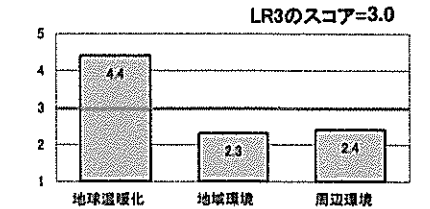
LR1 エネルギー



LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



3 設計上の配慮事項

倉庫としての最低限の機能を確保する。	該当なし
全ての部分が倉庫用途であって、事務室及びサニタリー等の管理に供する部分が無い為、Q1の項目は全て評価対象外とする。	用途上支障のない周辺環境にある敷地を選定して建設を計画した。
全ての部分が倉庫用途であるため、エネルギー消費に係る項目は対象外である。それ以外の項目については、LED照明器具を使用して省エネ化を図った。	エアコン冷暖には、R32(CH2F2)を使用し、オゾン層破壊係数をゼロに抑えるとともに、エネルギー効率の高効率化を図った。
	排気ガス等の発生がないほか、騒音の発生もない用途であり、周辺への環境負荷は非常に少ないものとしている。

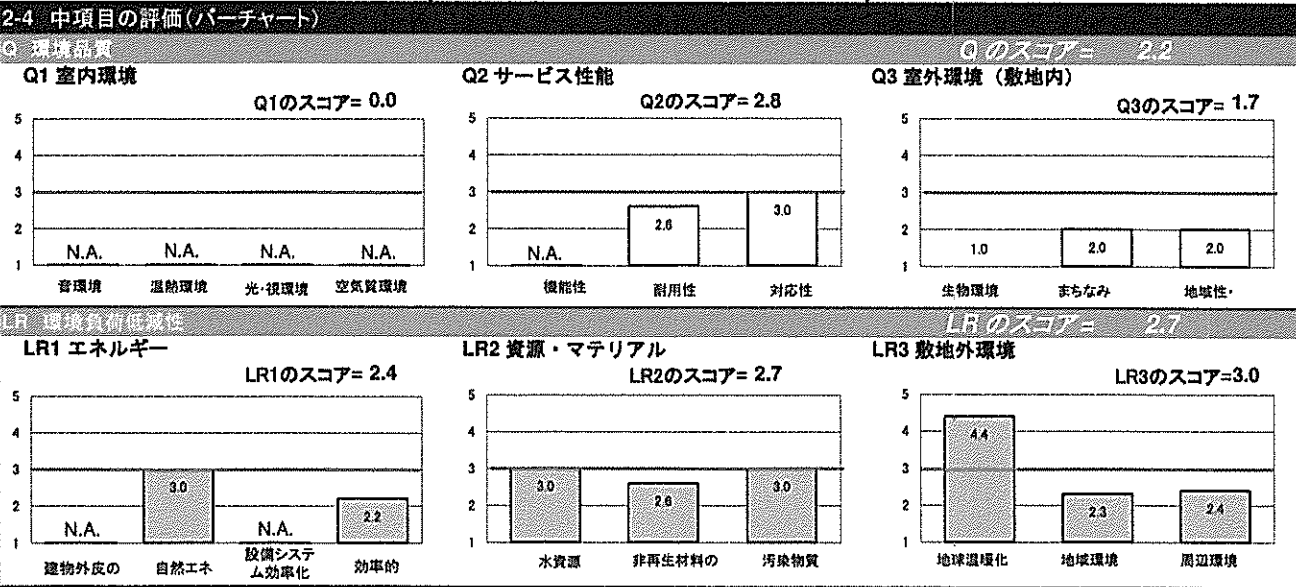
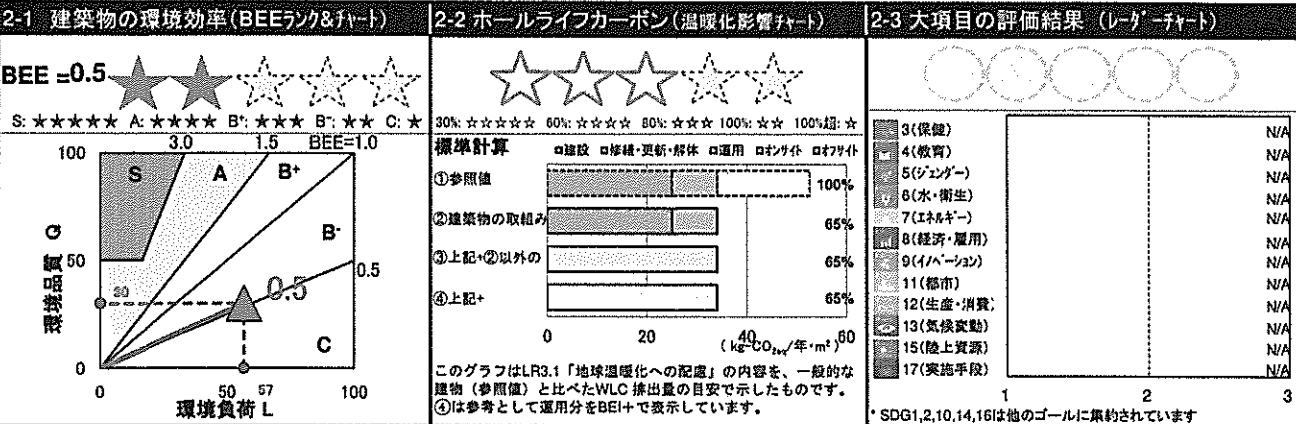
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.23

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ウディーハウス大型倉庫	階数	地上2F、地下0F	
建設地	京都府舞鶴市宇浜小字浜1054番	構造	S造	
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	0人	
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2026年4月21日	
敷地面積	2,755 m ²	作成者	田端 正昭	
建築面積	1,501 m ²	確認日		
延床面積	2,997 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合	倉庫としての最低限の機能を確保する。	該当なし
Q1 室内環境	全ての部分が倉庫用途であって、事務室及びサニタリー等の管理に供する部分が無い為、Q1の項目は全て評価対象外とする。	
Q2 サービス性能	前に同じく、Q2の内、1.機能性」に係る項目(1.1~1.3)は、評価対象外とする。建築物及び建築設備のハード面での信頼性、耐用性においては、使用上、安全上支障無い計画とする。	
Q3 室外環境(敷地内)	用途上支障のない周辺環境にある敷地を選定して建設を計画した。	
LR1 エネルギー	全ての部分が倉庫用途であるため、エネルギー消費に係る項目は対象外である。それ以外の項目については、LED照明器具を使用して省エネ化を図った。	
LR2 資源・マテリアル	エアコン冷媒には、R32(CH2F2)を使用し、オゾン層破壊係数をゼロに抑えるとともに、エネルギー効率の高効率化を図った。	
LR3 敷地外環境	排気ガス等の発生がないほか、騒音の発生もない用途であり、周辺への環境負荷は非常に少ないものとしている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される